



学校図書館だより 12月号

令和4年12月
柏市立西原中学校
柏市学校図書館指導員
岡部 容子

12月になりました。澄み切った空気は気持ちよく、背筋を伸ばして歩きたくなりますね。2022年も最後の月です。この一年、いろいろなことがありました。その一つ一つが、みなさんにとってかけがえのない経験でありますように。そして来年も、たくさんの本との出会いがありますように。

★2学期ベストリーダー★

- 第1位 1年2組 太田 七紬さん 24冊
- 第2位 2年2組 寺田 空翔さん 21冊
- 第3位 3年2組 廣瀬 慶梧郎さん 19冊
- 第4位 1年3組 中村 琴美さん 18冊
- 第5位 1年3組 村松 慶祐さん 18冊
- 第6位 2年2組 吉岡 琴美さん 15冊
- 第7位 3年2組 石倉 楓夏さん 14冊
- 第8位 2年3君 橋本 司さん 14冊



学校図書館よりお知らせ

★冬休み貸出★

貸出冊数：ひとり5冊 ※新着本は2冊まで

貸出期間：12/5(月)～12/20(火)

返却期間：1/10(火)～1/17(火)

たくさん読んでね



今月のおすすめ本

18歳成人

川端康成没後50年

『掌の小説』

川端康成 著 新潮社 <913>

日本で初めてノーベル文学賞を受賞した作家、川端康成。今年には亡くなって50年の節目の年にあたります。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」は代表作『雪国』の冒頭として有名ですね。本書は多くても7ページほどの作品を集めた短編集です。人生の一瞬を切り取った作品の中からお気に入りの作品を見つけてみませんか。



沖縄本土復帰50周年

『アンマーとぼくら』

有川ひろ 著 講談社 <913>

今年には沖縄が本土復帰して50周年の節目にあたります。沖縄を舞台にした小説を紹介します。

主人公のリョウが沖縄に里帰りし母親と過ごす3日間の物語です。小学校4年生の時に病気で亡くなった生みの母親のこと、子どものようなところばかりで嫌いだった、今は亡き父親のこと、新しい母親との関係、ずっと固まっていたリョウの心が解け出します。家族とは何でしょうか。自分にとっての大切なものを感じられる温かい作品です。

『大人になるってどういうこと?』

神内聡 著 くもん出版 <324>

成年年齢を18歳に引き下げることと内容とする「民法の一部を改正する法律」が2022年4月1日から施行されました。「子ども」から「大人」になることで、得られるものもあれば失われるものもあります。本書では成人として注意したい「契約」や「SNSやスマホのトラブル」など、身近な事例を取り上げて解説しています。事例を学びながら「大人になる」とはどういうことなのか、考えてみましょう。(本文より一部引用)

今年度の新着本より

『図書室のはこぶね』

名取佐和子 著 実業之日本社 <913>

今年度西原中には111冊の新着本が入りました。その中の1冊を紹介します。

高校の図書室で10年前に紛失処理された本が返却されました。1週間後は体育祭。伝統のダンスに全校生徒が取り組む中、けがの為に体育祭に参加できない臨時の図書委員の花音が体育祭の問題と紛失本の問題に直面します。『立場の数だけ正義があり、正解はいつだって遠い』主人公の気付きが印象的です。